

道徳の時間で活用する ～国際理解、国際親善～

防府市立牟礼小学校 徳永 裕

1 本場面におけるポイント

- 導入で、ねらいとする価値について考えさせる発問を投げかけることにより、児童の問題意識を高める。
- 心情メモリを用いることにより、アキラとペルー選手の関係の変化を可視化する。
- アンケート結果を終末で用いることにより、自己肯定感を高めながら自分を振り返ることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 国の壁を越えて 「資料名 ペルーは泣いている」

2 ねらい

アキラとペルー選手の関係を話し合うことにより、国際親善には言語などの異なる伝統や文化などの理解も必要であるが、それ以上に同じ人間として外国の人々を尊重しようとする心が大切であることを理解し、世界の人々との親善に努めようとする態度を育てる。

3 展開

(1) 導入 アンケート結果を紹介し、児童の問題意識を高める。

教師：外国の人と接するのに「困る」と答えた人が〇〇人もいました。「困る」とした理由は何だと思えますか？

A児：英語が話せない。

B児：生活習慣が違う。

教師：困ることがあるかもしれませんが、外国の人たちと仲良くするには、何が大切なのでしょう。

(2) 展開 アキラとペルー選手の関係を話し合う。

教師：練習を始めた頃、アキラとペルー選手はどんなことを思っているでしょう。

A児：(ペルー選手) ここは日本じゃない。家族と過ごす時間がなくなる。

B児：(アキラ) 本当に勝つ気持ちがあるのか？

教師：アキラとペルー選手の関係を心情メモリにネームプレートで表しましょう。

教師：人間関係が悪いのは、何が違うからでしょう。

C児：文化、習慣、考え方などです。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

アキラとペルー選手の心の隔たりを表出させるとき、児童をアキラ役とペルー選手役に分け、交互に発表させることで、登場人物に同化しながら考えることができるようにする。

人間関係が「よい」と「悪い」の対立軸上に、ネームプレートを貼らせることで、気持ちの可視化を図る。

心の隔たりが、「文化」「習慣」「考え方」などの違いに起因することを押さえる。

教師：ペルー選手は、どんなことを思いながら歌っているでしょう。
 A児：アキラへ感謝しながら歌っている。
 B児：ひどいことを言って悪かったと後悔している。
 教師：アキラとペルー選手の関係をもつ心情メモリにネームプレートで表しましょう。
 教師：アキラとペルー選手は、なぜ強いきずなで結ばれたのでしょうか。
 C児：互いの気持ちが通じたから。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

まず、歌を歌うときのペルー選手の気持ちを考えさせる。次に、再度ネームプレートを使って両者の心の溝が埋まったことを可視化する。その上で、きずなの強まった理由を問うことにより道徳的価値に迫る。



(3) 終末 学習内容をこれからの自分の生き方にどう生かすかを考える。

教師：みんなもアキラのような人になれそうですか？
 A児：難しいだろうな。
 教師：ここで、アンケート結果をもう一度紹介します。このクラスに、外国の人と一緒に何かをしたいという人が〇〇人もいました。「外国のことを教えてもらいたい。」や「日本のことを紹介したい。」など書いていました。皆さんの心の中にも、アキラのような国際親善の心がしっかりとありますね。
 教師：では、今日の学習で学んだことを、どのように生かせそうですか？
 B児：(ワークシートから) どんなに言葉が分からなくても、「相手を知ろう。」という気持ちがあれば大丈夫ということが分かったので、今度から、外国の人と接するときは、もっと相手のことを考えながら接したいです。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

展開の後半で、国際親善には「心」が大切であることを押さえた上で、アンケート結果を紹介し、学習内容をこれからの生活で生かそうとする態度を育てる。

3 実践を振り返って

導入で、「外国の人たちと仲よくするには何が大切か。」と発問をした上で、アキラとペルー選手の関係を考えることにより、文化や生活習慣の違いから生じる外国の人と接することへの抵抗感と、同じ人間として心を通わせることの大切さを対比的に扱った。このことにより、児童は国の壁を越えた「心」の大切さに気付くことができたのではないだろうか。最後に、BGMとして坂本九さんの「上を向いて歩こう」を流しながら、《ペルーは泣いている》(P183～)の読み聞かせをして学習を閉じた。少し涙ぐむ児童も見受けられ、自分をアキラとペルー選手に重ね合わせながら、気付いた道徳的価値の良さを実感することができたと感じた。